

114
A 2031



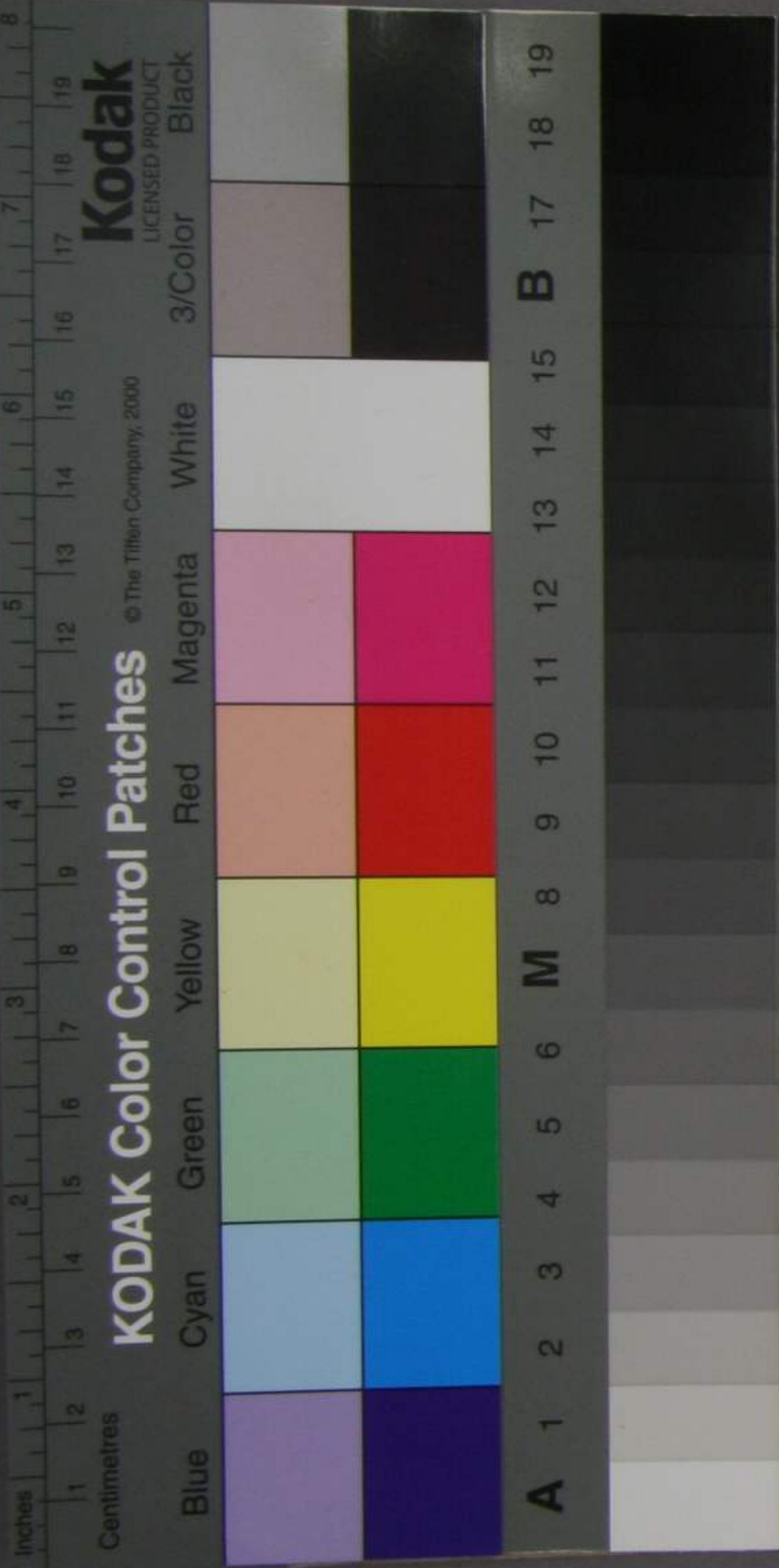
勅任出仕 奏任出仕

安藤就高
市川正寧
石渡貞夫

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

地租改正据置年限後處分之儀 = 付會
議中所見數岐 = 今レリ思フ = 議論之
如此分ル、所以ノモノハ各其ノ可ト
スル所ヲ可トスルヲ以テ遂ニ歸着ス
ル所ヲ知ラヌ只其ノ情勢ヲ斟酌シ利
害得失ヲ商量シ處分其ノ宜キヲ得ル
モノハ閣下ノ明裁アリ敢テ他説ノ非
ヲ辨セス謹而卑見ヲ陳シテ採擇
ヲ俟ツ抑々改正法御頒布以來六閱年

他日改正事務局



ノ星霜ヲ経テ全國殆ト成功ノ期ヲ見
ルニ至レリ顧ルニ昔日三百諸侯各種
ノ税法ニ據リ此隣輕重ヲ失レ土地錯
乱ノモトニ此スレハ實ニ好結果ヲ買
セ得タリト言ハサル可カラス然レモ
平心ニ其ノ成跡ヲ察スレハ尚未タ十
分ノ平準ヲ得ス其ノ間着手ノ先后各
地ノ情勢ニ由リテ自ラ成跡ヲ異ニス
ルモノ亦尠シトセス真ニ遺憾ト云フ
可シ因テハ五ヶ年ノ期明ニ至リ一般
更正ヲ要セントスルハ從事者ノ尤モ
極論ス可キ條款ニ似リト雖モ眼ヲ轉
シテ全局ノ得失ヲ計較スレハ當初ノ

改正竣功ヲ告ルモノ多クハ明治九年
ヨリ十一年ノ間ニアリテ郡村ノ内部
ニ至リテハ未タ帳簿ノ整頓セサルモ
ノアリ租稅假納ノ増減計算未タ終ラ
サルアリ改租費用ノ夥多ナル未タ精
算ヲ得サルモノアリ前支功ヲ竣ラサ
ルニ後事踵ヲ接スルノ情狀ニレテ反
令其ノ事純美ニシテ人民ニ幸福ヲ與
フルノ為メナルモ其ノ處措煩勞ニ堪
ヘサルノ思ヒアラシメハ畜徒法而已
ナラス怨嗟途ニ載スルモ知ル可カラ
ス是等ノ情勢ヲ洞觀スレハ寧口此期
ヲ延シ尚五ヶ年据置人民ヲシテ整

也且改正事務局

ク寧處ノ思ヒアラシムルニ如カス然
レ氏其ノ中輕重ヲ失スル太甚シキモ
ノハ此期ニ於テ修正ヲ加ヘサレハ重
ニ失スルモハ尚五ヶ年ノ久シキ其
重ニ堪ヘサル可シ輕ニ失スル太甚シ
キモノヲシテ此儘据置カシメハ他ノ
平準ヲ得ルモノ之レカ為メニ言ヲ藉
リ皆其ノ輕点ニ歸着セシメント欲ス
可シ事此ニ至リテハ當初改正ノ効忽
チ凡解拾收ス可カラサルニ至ル可シ
故ニ其ノ輕重ヲ失スル甚シキモノ身
當初ノ規則ニ准據シ簡易修正ヲ加ヘ
而十ヶ年ノ後ニ至リ時勢ヲ斟酌シ更

ニ一般更正法ヲ定メラルヲ以テ目下
ノ情勢適當ノ處分ト相考ヘ候蓋シ一
般ニ更正ヲ要スル際ニ於テハ當初改
正法ノ不全備ナルモハ總テ改削セ
サルヲ得サレ氏此回ノ調査ハ僅ニ當
初ノ欠漏ヲ補フニ止マレノ旨趣ニ出
レハ務メテ前規ニ照準スルヲ以テ穩
當ト思惟セリ故ニ更ニ機軸ヲ設ケス
實際着手ノ際緊用的ノ條欵ヲ掲ケテ
以テ更正規則トナシ太政官御伺案ヲ
草シ謹而高裁ヲ仰ク甬

也且文三事務局

大正十一年四月

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

地租改正後五ヶ年据置之處尚五ヶ年
据置其中己ハラ得サルモノニ限り更正
之儀太政官へ伺案

凡ソ事コレヲ始メニ行フハ易ク之ヲ終リニ保ツ
ハ難シ抑モ改租ノ法ノ如キハ領布以來今日ニ
至リ歳々闕スル六稔ニシテ其功殆ント竣成ニ属
ス亦ト未曾有ノ洪業ト云ハサル可ケンヤ夫レ改租
ハ全國一般ノ闕スル所ニシテ人民休戚ノ係ル所
ナルヲ以テ之ヲ始メニ施行スル素ヨリ易事ニ非
スト雖モ之ヲ終リニ保全スルニ至テハ更ニ是ヨリ

大正十一年四月

難キモノアリ試ミ之ヲ言ハシ蓋シ當時封建ノ
餘弊經界正シカラス税則一ナラサルモ、ラシテ
劃然一定ニ歸セシメントスルハ實ニ尋常旧制
ヲ变换スルノ比ニアラズ是レ其着手ノ易カラ
サル所以ナリ而シテ今ヤ整頓ニ就クト雖モ往々各
地ノ情勢ニ依リ其成跡ノ異ナルアリテ平心之ヲ察
スレハ未タ充分ノ平準ヲ得タリト云フ可カラズ
是レ素ヨリ數回ノ調理修正ヲ經テ始メテ完全
ナラシムルヲ得ヘキノミ然ルニ其修正ノ業タル
最モ民心ノ得失如何ニ關スルヲ以テ苟クモ其緩
急ヲ量リ其利害ヲ審ニシ且ツ施スニ漸ヲ以テスル
ニ非レハ反令ニ今日整頓ノ美アルモ却テ怨嗟ノ媒
タラサルヲ知ル可カラズ是レ其終ヲ保全スル就中

最モ難シトスル所以ナリ抑モ去ル七年ニ於テ
改正條例第八章ヲ追補シ五ヶ年地價据置
ノ公布アリシハ蓋シ頻々地價ヲ更正シ隨テ税
額ノ常ニ变换スルハ殊ニ煩勞ニ堪ヘサルヲ慮リシ
ニ外ナラス然ルニ此公布ノ期既ニ近ク接スルヲ
以テ更ニ第二期ノ調査ヲ一般ニ着手セント要ス
ルモ或ハコレアリト雖モ思フニ修正ノ大事業ヲ
シテ卒然舉行セシメント欲スルハ容易ニ行ハル可
キニ非ス況ンヤ此五周年間ノ如キハ專ハラ該業
整理上ニ於テ歲月ヲ移セシモノニシテ人民ヨリ
之ヲ視レハ未タ安息ニ遑アラサルハ言ヲ俟サル所
ナリ然ルヲ今又コレニ継クニ再調ヲ以テセハ殆ント
改租ノ法ノ為メニ民間聊カモ寧日ナキニ瘵殘カ

ラントス果シテ然ラハ民ニ休養ヲ與フルノ
聖旨モ亦タ無効ニ属スルヲ如何セン仍テ反覆
熟考スルニ此際寧日期ヲ延シ姑ク人民ニ休
養止息ノ^違暇ヲ與フル^方誠ニ目下ノ情勢ニ適
當可^ス致ト相^考候^依テハ今日ノ成跡ニ於テ稍平
准ヲ得ルモノハ總テ五ヶ年ヲ延期シ其中當初
施行ノ際方法ノ完全ナラサルモノ又ハ官民ノ
不^熟練等ニ因リ隣接ニ比較シ輕重ヲ失スル甚
シキト視認スルモノハ此期ニ於テ修正ヲ加ヘ
サレハ重ニ失スルモノハ尚五ヶ年ノ久シキ其
重ニ堪ヘサル可シ輕ニ失スル甚シキモノヲシ
テ此^儘据置シメハ他ノ平准ヲ得ルモノ之カ為
ニ言ヲ藉リ相率テ其輕點ニ比準セン^丁ヲ欲シ

苦訴百出遂ニ拾收ス可^テサルニ至ルヘシ故ニ
此ノ如キモノニ限リ別冊規則ニ照準更正候様
仕度依之公布案^及州^ニ添^ルニ更^正規則案ヲ以
テ^此段相同候也^相

八
七
六
五
四
三
二
一

布告案

地租改正後地價括置ノ儀ニ付テハ明
治七年五月第五十三號公布ノ旨モ有之
候處整理上數年ニ度リ未卒業相成
サル向モ有之ニ付尚五ヶ年据置可申
最モ隣接ノ平準ニ関シ難据置ト視認
候分ニ限リ別紙規則ニ授リ實地點檢
更正候義ト可相心得此旨布告候事

年月日

太政大臣

地價更正確則

第一條

地租改正後地價据置年期明至最前地價
= 据置ガタク視認ルモハ更實地ノ景况
就キ收穫地價ヲ調査スヘシ

第二條

該規則ニ據リテ更正シタル地價ハ以後五ヶ年
間据置タルヘシ
但荒地潰地或ハ買上地等ニテ地租ヲ免除シ
又ハ荒地潰地ノ起返リ及ヒ開墾年期或ハ耕
下地等ニテ地租ヲ課スル類ハ本條ノ例ニア
ラス

大正十一年四月
農商部寄贈

地租改正規則

第三條

地價ノ更正ヲ請求スルモノアルハ其理由ヲ
開申セシムヘシ

第四條

人民ノ請求ニ由リ又ハ官ノ檢按ニ由リテ更正
セサルヲ得サルモノト視認ルハ地位等級ヲ
編製セシメ收獲地價ヲ開申セシムヘシ

第五條

若シ最前ノ丈量疎漏ニ失シ地目錯乱及別伸縮
アル等ヲ發見スルハ官吏實視認標係ト人
地主ニ於テ地押丈量ヲ為シ主務ノ官吏檢査
上之ヲ改定スヘシ

第六條

渾テ地價ハ收獲_キ宅_ハ地_實等_地收_獲景_ノ視_況ル_ハキ_モナ
ヲ根據トシ當初算計ノ方法_一百_ノ分_三民_貴ト_稅利_三分_ノ
ルヲ以テ地價ヲ得ニ據ツテ調査スヘシ

第七條

當初、米麥價不適當ト視認更正ヲ要スルモノ
ハ^{當初}改正年ヨリ^前五ヶ年間ノ平均ヲ用ユヘシ

第八條

總テ地目_田畑_類ニ變換スルモ地價据置タリシ
モノハ五ヶ年期明ニ至リ實況ニ應シ近傍類地
ニ比準シ相當ノ收獲地價ヲ定ムヘシ
但六ヶ年目ヨリハ其年々更正スヘシ

第九條

該規則ニ由リテ更正シタル地價ニ生スル地租

増減ハ更正年度以後ノ改定ニ止リテ肯テ既
往ニ遡ラス

但更正ノ後本文ノ如キ増減ヲ生スルモノア
ルハ發顯ノ年ヨリ改定シテ又前年ニ遡ラ
ス

第十條

地價調査整頓稟議ヲ經テ決定ノ後各地主ヨリ
地券ヲ出サシメ式ノ如ク裏書捺印シテ下付
スヘシ
但手数料ハ收入ニ及ハス

裏書式

臺帳ト割印

印縣府

明治何
年何
期第何
次定

査定印ハ府縣ニテ
適宜彫刻スヘシ

地價若干
此地租若干

年月日

印縣府

第十一條

收穫地價検査ヲ了スルノ際若シ地主開申スル
處不相當ナルハ再調査ヲ命スルト雖モ地主私
見ヲ張リ首肯セサルハ主務ノ官吏衆議ヲ採

大蔵省

リ隣地ニ比準シ適當ノ地價ヲ查定シ經伺ノ上
之ヲ地主ニ申渡スヘシ

謹而地租改正條例ヲ案スルニ其追加
第八章曰改租ノ後五ヶ年間ハ當初
定ムル處ノ地價ニ依リ收税ス可シト
蓋シ此章ノ主義タル賣買代價ハ賦税
ノ標準トナシ難ク實利ヨリ生スル處
ノ地價ニ仍リ收税シ五ヶ年ヲ据置キ
六ヶ年目ニ至リ再調ス可キト云フヲ
以テ伺定メタリ是ヲ以テ本局員ハ勿
論地方官ヨリ區戸長顧問總代人ニ至
ル迄苟モ此事業ニ関涉スルモノ六ヶ
年目ニ至リ再調ス可キ精神ヲ以テ調
査ヲ了レリ然ラハ則チ滿歸期ニ至リ再

大正十一年四月
限候爵邸
片山

調ス可キハ多言ヲ要セサルモノ、如
レト雖也改租ノ事タル封建以來數百
千年ノ積弊ヲ一剷芟除スルノ大業ナ
レハ其煩雜名状ス可カラズ隨テ上下
經費モ亦費ラズ此年人民ノ困弊實ニ
想フ可シ政治上ヨリ之レヲ槩見スル
猶幾年ノ延期ヲ與、政府人民ト共ニ
休養スルニ若クナキ也退イテ之レヲ
熟慮スルニ各地方調査整頓ノ際ニ在
テ敢而遺憾ナシト認可セシモ竣功ノ
后ヨリ其ノ績ヲ回顧スル舊租ノ寬苛
人心ノ好惡從更者ノ工拙其各種ノ
事故アリ其情勢ヲ酌量スルモ多ク

一管内ニ在テ寬苛輕重其宜シキヲ失
スルモ一ニシテ止ラズ甚シキニ至
リテハ全管平均上此隣ト懸隔シ大不
權衡ヲ生スルモアリ今若シ概シテ
是ヲ延期セン予其苛ヲキニ夫スルモ
ノ必ヤ負擔ニ堪ユヘカラス然ラハ則
チ大体ヲ据置トシ輕重宜シキヲ失ス
ルモノ而已ラ更正シテ平準ヲ得セシ
ムヤ其重キニ失スルモノ減ス可キモ
其輕キニ失スルモノ增加ス可カラ
サルハ實ニ勢ノ見易キモノ也若夫レ
輕キニ失スル甚シキモノヲ更正

也且改正事務

セサラシメシムン乎天下ノ人民仮令一言
ノ苦訴ナキモ苟モ此事業ニ從事スル
モノ公平均一ノ至旨ニ對シ豈心ニ耻
サランヤ况其苦訴百出計ル可カラサ
ルヲヤ如何トナレハ各地方調査ノ際
他ノ輕キニ失スル甚シキモノ對照
シテ紛々物議アリシモ歸期再調ノ節
ニ於テ必スヤ其平均ヲ得セシム可キ
ト云フヲ以テ百方解諭シ人心ヲ服從
セシメソタルモノナレハ全國人民其再
調ノ如何ニ注目シ足ラ企テ其期ヲ待
ツ知ル可シ今之レカ措置ヲ爲シ各
地方ノ苛ラキニ失スルモノヲシテ最

下極度ノ点ニ至ラシムレハ可也否ラ
ス最下極度ノモノヲシテ此際ニ於テ
各地方ト稍其權衡ヲ同シフセシメサ
ル可カラス抑各地方ノ稍平準度ヲ得
ラシメシムン乎將タ最下極度ノ點ニ至
テ一タヒ平準度ニ達セシメシムン然ル後各
地方ト共ニ上下進退セシメシムン乎利害
得失智者ヲ待タスレテ知ル也且夫レ
括置ヲ主義トセハ追加第ハ章ノ精神
ヲ變更シ信義ヲ人民ニ地方官ニ失シ
從吏者自ラ心ヲ欺キ其害独リ改租事
業ニ止ラズ百般政治上ニ影響ヲ生ス

也且又五事務局

ル亦知ル可カラス故ニ再調ヲ主義ト
シ寛苛輕重共ニ其宜シキヲ失スル甚
シキト見認ルモ更正スルニ若カ
サル也

片山重範謹議

地租改正條例第八章追加
之議正院小法伺案

明治六年第七十號法律ヲ以テ地租改正
法律頒布相成於各地方官迄々着手之見込
申出山口縣之如キハ已ニ地價調査相済昨
明治六年不旧法相廢ニ新法ニ改正之義伺
之上同屆千葉縣滋賀縣兩縣ニ於テ正明治
六年不改正之積弊今專ク取調中ニ付不日
成功ニ可立到第ハ地租改正之後人民土
地ヲ賣買イタル際ハ地價或ハ低昂ノ差
ニ可申候得共右々全ク人民一時之好忌ニ
因リ取定候代價ニテ土地生利之実利ヨリ

第廿一
之ヲ以テ賦税ノ標準トイタル候テハ本テ
公平畫一之

御詔意：庶リ可申今般取調之地價ハ全ク
土地產出之第利ヨリ記簿調査致ニ精確案
當ヲ得候筈ニ付將來賣買ニ因テ低昂ヲ生
ニ候共五ヶ年間ハ括置六ヶ年目ニ至リ一
般調査ヲ遂候積地租改正條例、法違加相
成修繕致度此布告業取調此段相同ク也

年月日

大塚重信

大政大臣之條第百段